

**在スロバキア日本国大使館**  
**政治・経済月報（2017年1月）**

目 次

<b>内 政</b>	
◆スロバキアのEU議長国に関する評価	2
◆与党 Smer における世代交代の展望	2
◆政党支持率調査結果	3
<b>外 政</b>	
◆フィツォ首相のOECD本部訪問	3
◆ライチャーク外相の国連本部訪問	3
<b>社 会</b>	
◆日・スロバキアとの社会保障協定の署名	4
<b>経 済</b>	
◆2016年の自動車生産実績	4
◆Hard Brexit のスロバキア経済への影響	5
◆中国企業によるUSスチール・コシツェ社買収の可能性	5
◆スロバキア中央銀行月報（1月）	5

別添：主要経済指標

※本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

## 内 政

### ◆スロバキアのEU議長国に関する評価（2日）

フィツォ首相は「スロバキアがEU議長国の職務を全うしたことに満足している。また、我々が達成した成果や、会合、交渉及び我々が示し続けてきた提案を通して獲得した信用と尊厳を信頼できることにも満足している」と述べた。同首相は、中でもブラチスラバ・プロセスの開始が最大の成果であるとの見方を示し、「EU加盟国の指導者が一堂に会し、EUの将来について話し、今後数ヶ月の具体的な目標を設定したが、このようなことは長い間EUでは行われてこなかった。ブラチスラバ・プロセスは欧州政治の新たな歴史の始まりを告げるようなものであり、英国市民がEUからの離脱を決断した後にEUがやらなければならない内省の始まりである」と強調した。

ライチャーク外相は、スロバキアのEU議長国がプロフェッショナルに準備され、また実行されたことを評価すると共に、「我々は欧州の妥協点を見出すための公平で誠実な調停者であると考えられていた。議長国を引き受けた時から、欧州のテーマを前向き且つ建設的に進めていくよう取り組み、EU全体にとり望ましい解決策を模索してきた」と述べたが、これは主観的な評価ではなく、欧州のパートナーからのフィードバックに基づいている旨付言した。

### ◆与党Smerにおける世代交代の展望（17日付経済新聞）

フィツォ首相（方向-社会民主主義（Smer-SD）党首）は、「次世代を担う政治家」をお披露目した。少なくとも、フィツォ首相はペレグリニ投資担当副首相とサコヴァー内務副大臣のことをそう呼んだのである。この二人は、17日から首相の地方訪問に同行する予定である。今回の地方訪問の目的は、失業率が高い郡における行動計画実施状況の確認である。Smerのスポークマンであるコンチャロヴァー氏は「フィツォ首相は、ペレグリニ氏とサコヴァー氏の職務上の権限に基づき、両者を地方訪問に同行させることにした。両者の役割は、行動計画の実施状況を確認する他、地方の問題を具体的に把握し、その解決案を策定することである」と説明している。

政治学者のコジアク氏によれば、サコヴァー氏がSmerの新しい顔として紹介されたということは、Smer政権がもはやカリニャーク内相を当てにしていけないと見ることもできる。また、同氏は「サコヴァー氏が国民に対してどのような形で自分自身を紹介し、そしてフィツォ首相とSmerが将来に向けた取り組みの中で、あるいは党内構造の中において彼女をどう引き上げていくのかということとは有権者に対する重要なシグナルとなる。サコヴァー氏の知名度は比較的低く、自身のイメージ作りに大いに取り組む必要がある」と述べた。

#### ◆政党支持率調査結果（24日）

世論調査機関Polisによる1月の政党支持率調査の結果は以下のとおり（括弧内は支持率に基づいた議席数）。Smerと連立与党を形成しているSNSとMost-Hidの支持率が共に下落した。

政党	Polis	2016年選挙
Smer-SD（方向・社会民主主義）	27.4%(44)	28.3%
SaS（自由と連帯）	13.2%(21)	12.1%
OLaNO—Nova（普通の人々・独立した人達—新たな多数派）	12.2%(20)	11.0%
LSNS（我々のスロバキア）	11.1%(18)	8.0%
SNS（スロバキア国民党）	10.0%(16)	8.6%
Sme rodina（我々は家族）	7.4%(12)	6.6%
KDH（キリスト教民主運動）	5.9%(10)	4.9%
Most-Hid（架け橋）	5.6%(9)	6.5%

#### 外 政

#### ◆フィツォ首相のOECD本部訪問（17日）

フィツォ首相はグリアOECD事務総長と会談を行い、汚職対策の協力強化に関するMOUに署名した。これにより、OECDは、スロバキアの汚職対策に関する法制度が効果的で標準的なものであるか、あるいはビジネスや経済成長の妨げになっていないかどうかについて監査を行うことになる。フィツォ首相は「汚職対策について良い悪いの判断するのはジャーナリストでも野党のリーダーでもない。その目的のために我々が協力すべき国際機関がちゃんとある」と強調すると共に、「OECDはこの問題に対して完全に客観的に対処すると強く確信している」と付言した。

#### ◆ライチャーク外相の国連本部訪問（23日～24日）

23日、ライチャーク外相とグテーレス事務総長は、ウクライナ及び西バルカンの他、緊張が高まっている他の地域の情勢について意見を交わした。ライチャーク外相は「我々は、この困難な時期に、平和、紛争予防、持続可能な開発及びこれらの要素の連携に重点を置く力強い、そして実績をあげることができる国連を必要としている」と述べた。

24日、ライチャーク外相は「すべての人のための持続可能な平和構築」をテーマとしたハイレベル会合に出席した。同外相は演説の中で「より安全で公平な世界の保障は、先進国や貧困に苦しむ国々を含むすべての人のためのものである。平和と安全は発展をもたらすための基本的な条件である

が、その逆も然りである。つまり、発展と貧困撲滅がなければ持続可能な平和をもたらすことができない。」と述べると共に、新たな安全保障上の脅威、過激主義の伸張及び人道危機が世界の地勢図を絶えず変化させている旨指摘した。

## 社会

### ◆日・スロバキアとの社会保障協定の署名（30日）

30日、新美潤駐スロバキア大使とリフテル労働・社会・家族大臣との間で「社会保障に関する日本国とスロバキア共和国との間の協定」が署名された。現在、日・スロバキア両国からそれぞれの相手国に派遣される企業駐在員等については、日・スロバキア双方の年金制度に二重に加入を義務づけられる等の問題が生じている。日・スロバキア社会保障協定は、これらの問題を解決することを目的としており、この協定が効力を生ずれば、一時派遣被用者等は、5年の期間が満了するまで、原則として、派遣元国の年金制度のみに加入することになる。また、両国での保険期間を通算してそれぞれの国における年金の受給権を確立できることになる。

## 経済

### ◆2016年の自動車生産実績（12日付Trend誌電子版）

ジリナに生産拠がある起亜自動車の2016年自動車生産台数は、前年比0.4%増となる33万9500台であった。エンジン生産数は前年比5%増で過去最高となる61万2900台を記録した。SUV（スポーツ用多目的車）のスポンテージ新型モデルが、生産された全ての車種のうち64%を占めており、シード（28%）とヴェンガ（8%）がそれに続いている。主な輸出先は、英国（16%）、ドイツ（9%）及びロシア（9%）であるが、英国のEU離脱決定後のポンド安は起亜自動車の収入減につながった。なお、本年、起亜自動車は、主に新型モデル生産の準備のために1億3000万ユーロを投資する予定である。同社は3800人を雇用しており、組立てラインで勤務する労働者の平均月給は、1350ユーロに引き上げられる見通しである。

トルナヴァに生産拠を置くプジョー・シトロエン（PSA）の2016年自動車生産台数は、前年比4%増となる31万5050台であった。ブラチスラバ近郊に工場があるフォルクスワーゲンの2016年生産実績は3月に公表されるが、上半期の生産台数は前年とほぼ同様の20万4000台であった。スロバキアで自動車生産を行っている上記3社の2016年自動車生産台数の合計は、2015年の103万8000台を上回ると見られる。

#### ◆Hard Brexit のスロバキア経済への影響（20日付スメ紙）

スロバキア国立銀行（NBS）のトート副総裁は「我々はこれまでSoft Brexitを想定していた。もし、Hard Brexitになるのであれば、それは現時点の予測に対するリスク要因となり得る。ただし、Brexitがどのような形で行われるのかを詳細に分析するにはまだ早すぎる」と述べた。

NBSはこれまで、英国のEU離脱はスロバキアの経済成長を0.3%押し下げると予測していた。トート副総裁は「（Hard Brexitは、）経済成長を0.5%押し下げる可能性があるが、いずれにせよ、その影響は間接的な形で最も大きく現れるであろう。スロバキアの対英輸出は全体の4%程度に過ぎないが、スロバキアの貿易相手国、特に対英輸出が大きな割合を占めているドイツの経済成長が停滞することになれば、間接的にスロバキアの輸出にも影響が出てくるというわけである」と説明した。

#### ◆中国企業によるUSスチール・コシツェ社買収の可能性（27日付経済新聞）

USスチール本社が、同社の所有するコシツェ製鉄所の売却の交渉相手を河北鉄鋼集団一社に絞った。経済新聞の情報によると、26日、両社はピッツバーグにおいて覚書に署名した模様である。これにより、今後中国資本がコシツェの製鉄所に入っていくことになる。スロバキア機械産業連盟副会長のボルグラ氏は「覚書について明確な決まりはないが、取引とスケジュールの大枠を定めるものである。また、覚書への署名により、他の関係者は排除されることになる」と説明している。

スロバキア政府もUSスチール・コシツェ売却に関する交渉の行方に関心を持っている。所有者が代わった場合、国は製鉄所の株式の一部を取得することを考えている。経済省のスタノ報道官は「今のところ中国企業との覚書署名に関する情報はない。署名が行われる場合は公表する」と述べた。

#### ◆スロバキア中央銀行月報（1月）

##### 1 GDP

ユーロ圏経済は成長路線を維持している。2016年9月と10月の経済指標は、2016年第4四半期の経済活動が加速することを示している。

ユーロ圏における好調な動きはスロバキアの経済活動にも反映されている。2016年11月の経済指標（売上、鉱工業生産、輸出）は好調であり、引き続き第3四半期の低調な経済活動を埋め合わせた。経済成長に大きく貢献したのは、第3四半期に著しく停滞した輸送機器製造であった。

## 2 労働市場

11月の雇用率は前年同期比で2.7%上昇した。比較的広範にわたり成長しており、購買力の上昇、スロバキアにおける多国籍企業の支店の活動拡大、ビジネス部門、そして部分的には観光部門の成長の影響も受けているサービス業が、雇用率の上昇に貢献した。

12月の季節調整前の登録ベースでの失業率は前月から0.02%下がり8.76%であった。過去1年間（2015年12月～2016年12月）で登録ベースでの失業者数は5万8000人減少したが、これは経済危機前の2005～2007年に匹敵する数値であり、経済危機後では最大の減少数である。

11月の平均賃金は前年同期比で4.1%の上昇し、994.2ユーロとなった。経済成長の継続とそれに伴う従業員を獲得、維持する必要性が、引き続き賃金の上昇を後押しすると見られる。

## 3 物価

12月の物価は予想通り前年同期比で0.2%の上昇となり、35ヶ月ぶりにプラスに転じた。前月比では0.1%の上昇となったが、これには燃料とサービスの価格上昇及び前年末の高い水準との比較のため食品価格の下落率が大きかった状態が緩和されてきたことが貢献した。12月の物価の動きを踏まえ、2017年の平均インフレは1%以上になると予想される。

## 4 貿易

11月の商品輸出は前年同期比で4.1%増加し、輸入は5.5%減少した。貿易黒字額は1億9100万ユーロに達した。

# スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

